

***** 2017.9.30 発行 *****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会

〒102-0082 東京都千代田区一番町23番地3 日本生命一番町ビル5階
公益社団法人 青年海外協力協会 気付

E-mail: info@japan-malawi.org

Home Page <http://www.japan-malawi.org/>

Tel: 042-510-9138

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)

人口：1,760 万人 (2016 年、国家統計局)、首都：リロングウェ

独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語

政体：共和制、大統領：ピーター・ムタリカ

為替レート：US\$ 1 = MK 718.51 (3 月 2 日現在)

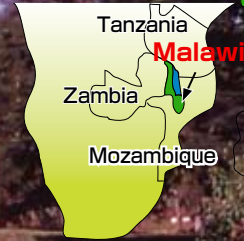
MK 1 = 0.15 円 (同日現在) (MK = マラウイ・クワチャ)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。1983 年 2 月 26 日設立。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。国内会員数：186 人 (3 月現在)



マラウイ共和国 国旗



ニュース 第 35 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 35 回通常総会が 2017 年 5 月 20 日 (土) 17:00 から東京都新宿区、市ヶ谷の JICA 地球ひろばセミナールームで開かれた。

第 1 号議案では、平成 28 (2016) 年度の事業報告と決算報告および会計監査報告が次の 4 つの分野について行われた。

- (1) 広報活動：機関紙 KWACHA 第 56 号、第 57 号の発行、外務省と JICA などによる国際協カイベント「グローバルフェスタ JAPAN2016」への参加、西岡周一郎前駐マラウイ共和国大使による講演会、マラウイの社会経済状況の広報など。
- (2) 文化・交流活動：Rosemary Kanyuka 駐日マラウイ共和国臨時代理大使によるマラウイ国情講演会、マラウイ独立 52 周年祝賀行事など。
- (3) 国際協力活動：マラウイに派遣されている青年海外協力隊 (JOCV) 隊員の付加活動を本会が支援する取り組み「マラウイ・ウォームハート・プロジェクト」第 11 回プロジェクトの完了など。
- (4) 組織活動：会員データの管理、新規会員募集活動、会員有志による月例の定例会合など。

第 2 号議案では、平成 29 (2017) 年度の事業計画と予算案が審議され、前年度の事業実績と決算を踏まえて事業展開を図ることとなった。

イベント 独立 53 周年記念祝賀行事開かれる

日本マラウイ協会は 2017 年 7 月 15 日 (土) 東京都新宿区市ヶ谷の JICA 地球ひろばで、駐日マラウイ大使館と共催してマラウイ共和国独立 53 周年記念祝賀行事を開催した。公益社団法人青年海外協力協会 (JOCA) によるマラウイのムジンバ県における農民自立支援プロジェクトの完了報告を皮切りに、グレンゲナー・バンダ駐日マラウイ大使に「マラウイ：アフリカの温かい心」と題する講演をいただいた。併せてマラウイを舞台に活動する関係団体が紹介された。

引き続き独立記念祝賀会では、物故隊員への黙とう、マラウイ共和国と日本の国歌斉唱があり、野呂元良本会会長 (元駐マラウイ日本大使) によるマラウイ独立 53 周年への祝辞、バンダ大使によるあいさつを頂いた。西岡本会副会長の音頭で乾杯をおこない、マラウイの代表的主食「シマ」を囲んでの懇談会「シマを食べる会」に入った。今回の祝賀会には、駐日大使、大使館職員・家族、日本に滞在するマ



▲マラウイ独立 53 周年記念祝賀行事「シマを食べる会」

ラウイの人々、関係団体の人々、JOCV の OB・OG80 など約 100 名が集い、旧交をあたため国の将来を語り合った。熱気に包まれた会場で、JOCV 在マラウイ事務所有志から寄贈されたシマや、マラウイと日本双方の代表料理を楽しみ、独立 53 周年を祝い親睦を深めた。

マラウイ国情セミナー「マラウイ:アフリカの温かい心」

2017 年 7 月 15 日 (土) 15:00 ~ 16:00

JICA 地球ひろばセミナールーム

講師：駐日マラウイ共和国大使 Grenenger K. M. Banda 閣下

グレネンガー・K. M. バンダ

1953 年生まれ。英国アバディーン大学森林施業経営学修士号。マラウイ共和国政府森林省奉職後、2005 年から 2009 年マラウイ大学講師、2009 年よりマラウイ国会議員、同国灌漑・水開発省副大臣を経て、2016 年 12 月より駐日大使。



▲バンダ大使(上)とバンダ大使による講演会

(講演は英語。タイトル: "MALAWI: The Warm Heart of Africa")

マラウイ独立 53 周年祝典の開催にあたり日本マラウイ協会に感謝申し上げます。マラウイは「アフリカの温かい心」と呼ばれています。この会場にはマラウイのことをよく知っている方々もおられると思いますが、きょうはマラウイの概略、農業、鉱業、観光と文化についてお話しします。

1 マラウイの概略

マラウイは南部アフリカの内陸国で、北東をタンザニア、北西をザンビア、南東をモザンビークと接しています。人口は 1,630 万人 (一説によると 1,670 万人)、面積は 118,484 km²です。ただし広大なマラウイ湖があり陸域の面積は約 94,000 km²です。ビジネス用語は英語、地元の言葉は主にチェワ語です。その他にトゥンプカ語、ロムウェ語、ヤオ語などがあり、13 の言語があるとも言われています。

2 農業

マラウイの経済は農業に依存しています。主に、とうもろこし、タバコ、茶、米、サトウキビ、綿、カシューナッツ、ピーナツ、豆、コーヒー、大豆、ゴムなどを生産しており、農業は国の成長の 80% を担っています。洪水、かんばつというショックによって 2015 年と 2016 年の 2 年間の経済は停滞しました。2016 年にはマラウイの国内総生産 (GDP) の実質成長率は 2.7% と低いものでした。水不足は農業だけではなく、水力発電による電力の不足によって工業にも悪影響を与えました。また、農業は工業原料の 65% を生産しているため農業の不振は工業に悪影響を与えます。

しかし今、かんばつや洪水から回復するきざしが見え、今後は天候が不順でなければ、経済は回復すると見られています。2017 年の GDP の実質成長率は 5 ~ 6% になるとの推計もあります。タバコだけで輸出額の 50 ~ 65% をしめており、村落社会の収入の 65% を提供しています。世界保健機関 (WHO) はタバコに反対していますが、WHO に反対する勢力もあります。タバコ会社は加熱型タバコなどのタバコの新技術を開発しており、マラウイはタバコを生産し続けます。JTI (日本たばこ産業株式会社グループの国際企業) は Lilongwe で工場を操業しています。マラウイでは、タバコと茶とさとうきびは大規模なプランテーション栽

培が典型的です。ついでながら、私はタバコのプランテーションを所有しており、お見せしているスライドのタバコ農場の写真に写っている男性は私自身です。私の農場のタバコが 2016 年の最高品質であったことを誇りに思っています。

近年、さとうきびの新工場が Salima にできました。また、現在では 3 か所に製糖場があります。一方、マラウイの綿は高品質ですが、世界市場ではまだ残念ながら適当な支持を得ていません。マラウイの米も質が高く多くのブランド米があります。しかしながら、日本へは他の消費財の輸出は自由であるのに、政策上の問題があって米の輸出は許されていません。山羊や牛といった家畜も育てられています。私は来日前、Lilongwe にあった 30m × 30m ほどの敷地で 2 頭の家畜を飼っていました。とうもろこしはマラウイの主食です。天水農業なので、天候に恵まれれば豊作になり、輸出も可能になります。いも類やピーナツの生産もしています。ひとつの農産物だけに特化すると異常気象などに対して脆弱になるので、さまざまな農産物を生産して強靱性を高めることが望まれています。マラウイには多くの地場の市場があります。たとえば、Jenda のマーケットはとてにぎやかなものです。

3 鉱業

マラウイには鉱物資源は無いと考えられていましたが、そうでないことが分かってきました。私見ですが、1891 年に始まる英国によるマラウイの植民地化に際して、英国人はマラウイ人を、礼儀正しく善良で従順で勤勉な国民、いわば「アフリカの温かい心」と見なしたため、マラウイを農業国と位置づけ、鉱業開発には重点を置かなかったと思います。英国人がマラウイ独立以前にしたことは、灌漑のための 350 か所のダム建設でした。このことは、英国がマラウイを農業国と位置づけ、ザンビアとジンバブエを鉱業国と見なしたことを意味していると思います。そのため、以前には多くのマラウイ人がザンビアやジンバブエに働きに出ました。しかし今では多くの種類のしかも大量の鉱物資源が見つかります。

希土類元素 (レア・アース)、ボーキサイト、鉄、石炭、ウラニウム、石灰岩、亜鉛、銅、金、プラチナ、鉛、ニオブ、ニッケル、カリウム、原油、タンタルの埋蔵が確認または示唆されています。たとえば Kasungu には石灰岩の大きな鉱床があり、セメント工場は全国に設けることができました。逆に、マラウイの石炭はあまり知られていません。また、リン鉱石は肥料の原料になりますが、まだ十分に産出されていません。北部ではパラディン社がウラニウムの採掘を始めましたが、現時点では操業を停止しています。ウラニウムの鉱床は他にもあります。

4 観光と文化

観光資源としては、まずマラウイ湖があげられます。なかでも Mangochi にあるマラウイ湖国立公園は国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) の世界遺産に登録されています。その他にも、南部には Liwonde 国立公園の Mvuu キャンプがあります。ここでは「Big Five Game」と称される大型動物である象、サイ、水牛、ライオン、ヒョウなどを見ることができます。北部には Nyika 国立公園があります。ここには 660 種類のランがあり、レオパード、エランド、レイヨウなどの野生動物の群れが見られます。私はスコットランドに 4 年間いましたが、Nyika 国立公園の起伏に富んだ地形はスコットランドによく似ています。南部には Majete 野生動物保護区もあります。全国では、国立公園 6 か所と野生動物保護区 5 か所があります。さらに公認された森林保護区が 66 か所あり、川や丘を背景に美しい木々やさまざまな動物たちを見ることができます。森林は自然林と植林を含んでいます。私はもともと森林が専門なので、66 か所すべてを踏査しよく知っています。

マラウイにはさまざまな民族による伝統豊かなダンスがあります。Gule Wamkulu (グルワンクール) というお面をかぶって踊る伝統的なダンスや現代風にした Chintali (チンタリ) ダンスも代表的なものです。私たちは子供や生徒にダンスを教え伝統が無くならないように努めています。結婚式での伝統的なダンスのスライドをお見せしていますが、これは兵士の結婚式の本当の様子です。ダンスのなかで兵士は花嫁に敬礼します。マラウイはスポーツの好きな国で、とくに男性にはサッカー、女性にはネットボールに人気があります。ネットボールの女子マラウイ

代表チームは近年アフリカでたびたび1位にランクされており、世界大会では5位の常連です。

最後に「美しいマラウイ」のビデオを流します。Zikomo Kwambiri. Thank you so much. ありがとうございます。

マラウイ・ムジンバ県における 農民自立支援プロジェクト完了報告

2017年7月15日(土) 14:30 ~ 15:30

JICA 地球ひろばセミナールーム

講師：青年海外協力協会 国際事業部国際二課 大熊裕司氏

公益社団法人青年海外協力協会 (JOCA)は、2005年以來ムジンバ県における農民自立強化・生計向上プロジェクトを実施してきた。このプロジェクトは対象地域のコミュニティの基盤強化を目指して開始し、最終的に小規模な自給農家から小規模商業農家による複合農業への転換を図ることを目的としたもの。必要最低限の投入、地域で入手可能な資源の最大限活用、自主性の尊重をアプローチ手法の柱としている。ムジンバ県南部農業事務所所管のカゾンバ普及計画地域とチカンガワ・サブ普及計画地域を対象に事業を展開し、直接被益者480世帯、間接被益者10万人を見込んでいる。

プロジェクト期間中の当初の数年間個人とグループの能力強化に力点を置いてきた。ニンニクやショウガに着目し換金作物生産の多様化をすすめ、それら製品の流通に係るフードチェーンを理解し価格交渉力を養うとともに、生産多様化に伴う収益の向上と安定化を図っている。産卵鶏や国産改良鶏 (BA種) を対象とする養鶏事業では、事業を通じて、計画的に生産・販売するためのビジネス戦略を学ぶ機会を提供している。うさぎ飼育では、農村資源を多面的に捉え、粗飼料で飼育可能な、かつ繁殖能力の高い兎の飼育を広め、養蜂は森林保護や気候変動対策としても効果が期待されている。家畜の軽度の疾患や病予予防を推進するため、2015年以來、家畜技能者育成支援も行っている。

近年とくに2014年以降、個人・グループの能力強化にとどまらず、ゾーンの強化、コミュニティの自立発展に向けた小規模商業農家への転換も図っている。すなわち、農産物の等級付けや出荷時期の調整、パンなど加工品作成によって高収益化をねらい、農民主体によるミーティングやトレーニングの開催、および栽培技術の共有によって、コミュニティの活動全体を強化しつつある。

2005年にJOCA独自予算で開始になったこのプロジェクトは、2009年から日本政府の「日本NGO連携無償資金協力」により資金面での支援を得て実施されてきた。2017年3月をもって一応の完了を見たが、諸活動を通じて大きな成果があり農民の主体的なコミュニティが育ったと考えている。今後もアフリカの地方農村における農民の自立・生計向上を見守っていきたい。

トピックス

団体の紹介

日本マラウイ学生団体

(大平拓実部長、清水大地副部長)

私たちは筑波大学の学生団体です。マラウイを訪問して情報を共有すると同時に日本ではマラウイの知識を広めています。昨年はマラウイでUNDOKAIを開催しました。これはマラウイのテレビ局が取材を受けました。日本では学校でマラウイに関する授業を行いました。今年のマラウイ訪問は2回目になります。今年もUNDOKAIを開催します。また、マラウイの大学生との対話を持つ予定です。これらのことでは駐日マラウイ大使館のBwanali書記官にもお世話になっています。私たちは今からわくわくしています。また、筑波大学の学園祭ではマラウイの写真などの展示をします。みなさんご参加ください。

NPO法人せいほ

(Declan Somersさま、山田真人さま)

私たちはマラウイの学校給食の支援をしています。1食は約15円の費用でできます。日本のスタッフ2人とマラウイのスタッフ4人という少数が中心となって進めているので費用を抑えることができます。現

在の収入の25%は日本からの寄付で75%は日本でやっている事業の収益です。Mzimbaでは給食活動によって生徒の健康の改善や退学の減少が見られています。マラウイのコーヒーや紅茶の販売によって、マラウイ人の収益の向上と学校給食の拡大の両方を目指しています。みなさんには私たちの商品の購入や寄付をつうじてマラウイの学校給食を応援してくださいようお願い申し上げます。

マラウイ・ウォームハート・プロジェクト

2000年以來本会は、マラウイの地域発展のための草の根レベルの協力を、派遣中の青年海外協力隊員からの提案に基づき支援する「マラウイ・ウォームハート・プロジェクト」を実施しており、昨年度までに計11件のプロジェクトが完了している。今回、第12件目となる「ンパマンタ村幼稚園校舎再建設プロジェクト」が完了し、8月、提案者原洋子隊員(平成27年度3次隊、コミュニティ開発)から最終報告書が提出された。

このプロジェクトは、幼稚園運営に熱心な村人や地域団体 Vision of the Youth Organizationの要望に応え、劣化の激しい旧校舎に代えて新校舎を建設し、あわせて図書館、Organizationの事務所、幼稚園用調理室を併設するもの。原隊員によれば、このプロジェクトにより、教育機会が拡充し、Youth Organizationの自信や意識が高まり、また、近隣地域の団体にも自分たちで校舎を用意しようという機運を高めて地域レベルでの意識改善が見られたという。最終報告の詳細は本会ホームページに掲載。

第13件目となる「ティアンジャンネ保育園の校舎再建プロジェクト」は本年4月に採択され、近々最終報告がなされる予定である。

なお本会は、これをもってウォームハート・プロジェクトの募集を一旦休止し、今後の協力支援策を改めて検討することとしている。

横浜市水道局とJICAがマラウイ支援の覚書を締結

4月27日、JICAは横浜市水道局と「マラウイ共和国プラントイヤ水公社支援のためのボランティア連携に関する覚書」を締結した。

横浜市水道局では2014年から2016年までの間にJICAを通じて延べ9名の職員をボランティアとしてプラントイヤ水公社 (BWB) に派遣し技術援助してきたが、より息の長い支援が求められており、BMBからも強い要望が出ていた。この連携により今年度から3年間、横浜市水道局から毎年4名の職員が1か月半にわたりBWBで漏水対策に関する技術支援や料金徴収について活動する予定。

協会活動を大幅リニューアル中です！

去る5月20日開催の第35回通常総会において、①帰国隊員の入会減少問題、②特定理事への業務集中問題、③インターネット利用の遅れなど諸問題が指摘され、理事の大幅改選も加わり、新体制の構築と取組の改善が求められました。そこで新体制では、数次に亘る理事会の開催や関係理事による討議を重ねてきました。

その結果、従来から取り組んできた事業の継続は当然のこと、その中で省力化できるもの、効率化できるものは省きながら、これまで以上に「強気に発信する」「強気に惹き付ける」「活発な交流の場を創る」ことを目指して、

- (1) インターネットを活用した一般や帰国隊員へのアピールと、会員間のコミュニケーションの活性化を推進すること
- (2) ITを利用した業務の効率化を行うこと
- (3) 組織内分権化により協会業務の多様性・即応性を高めることをねらって幾つかの委員会を中心とした活動に基盤を置くこととしました。これらを通じて、これまでに次のような新たな企画・準備・改革を進めています。

【ホームページをリニューアルしました】

スマートフォン、タブレットでも見やすいレスポンス形式への変更、積極的に会の考えをわかりやすく伝達できるようビジュアル・コピーにも注力した新サイトを構築しました。今後、さらに内容を充実して

きます。従来のURLを参照ください。

【ロゴマークを作りました】

日本とマラウイのシンボルをモチーフにしたものを作成しました。今後、さまざまな機会で使用してまいります。



日本マラウイ協会

【皆さまの活躍・参加を募っています】

①作品募集：「あなたの活躍 募集中！」のキャッチコピーのもと、まず、「マラウイ作品2017」（「あなたの想い・経験を形にしてください！」）の募集（インターネットで伝搬可能な「文書・画像・動画・音声」のネット投稿）を開始します。追って、来年7月に開催予定の集いでの発表募集、開発・協力に向けた提案募集などをネットで公募していきます。

②参加募集：当会主催・共催の催事をご案内します。

③会員募集：「賛助会員」（年会費1,000円）という枠を追加して、オンラインでの連絡という条件制限は設けるものの、広く一般からの入会や、海外や遠隔地で生活する帰国隊員や関係者の入会を促します。

【委員会制度を導入しました】

本会の活動の基盤とするため次の委員会を置きます。
 催事運営委員会（山村俊之委員長）、広報委員会（木内行雄委員長）、総務委員会（吉田均・野元明俊 両委員長）、IT推進委員会（側嶋康博委員長）、文化交流委員会（草刈康子委員長）、財務委員会（飯島ともこ委員長）。

日本マラウイ協会役員

（任期：2017.5.20から2019年の総会まで）

役職	氏名	所属団体等	マラウイ 派遣年
顧問	数原 孝憲	元アイルランド大使、元ナイジェリア大使、元青年海外協力隊事務局長、前日本マラウイ協会会長	
会長	野呂 元良	元在マラウイ日本国大使（初代常駐大使）	
副会長	西岡周一郎	前在マラウイ日本国大使	
専務理事	貝塚 光宗	(公社) 青年海外協力協会顧問	S46-1
理事	小松 建大	元松戸市役所	S47-1
理事	山村 俊之	(公社) 青年海外協力協会参与	S47-1
理事	殿村 孝	トノズビルエンジニアリングカンパニー代表	S47-1
理事	中小原 淳	(株) 団建築設計事務所代表取締役	S49-2
理事	木内 行雄	元豊橋技術科学大学教授	S50-2
理事	藤村 俊作	八戸工業大学非常勤講師	S50-2
理事	吉田 均	(株) アイ・ディー・イー	S52-1
理事	側嶋 康博	東京都精神保健福祉家族連合会評議員	S55-4
理事	室伏 晴彦	元警視庁	S58-3
理事	草刈 康子	東京大学・日本学術振興会(JSPS)特別研究員	H9-3
理事	飯島ともこ	箱根植木株式会社	H14-3
理事	野元 明俊	新宿区議会議員	H15-1
監事	竹内 明久	竹内社会保険労務士事務所長	S51-2
監事	高橋 敦子	(株) ジェネラス	

日本マラウイ協会 2017(平成29)年3月～8月 主な活動内容

2017.3.30	協会3月定例会、機関紙KWACHA第57号発行
2017.4.6	バンダ駐日大使と本会野呂会長らとの会談
2017.4.22	協力隊まつりへの参加・出展(4.23まで)
2017.4.27	JOCAムジンバ県プロジェクト報告会、4月定例会
2017.5.20	第35会通常総会
2017.5.22	5月定例会
2017.6.18	平成29年度第1回理事会
2017.6.29	6月定例会
2017.7.8	平成29年度第2回理事会
2017.7.15	マラウイ独立53周年記念祝賀行事
2017.7.27	7月定例会
2017.8.2	バンダ駐日大使と本会野呂会長らとの会談
2017.8.26	平成29年度第3回理事会

日本マラウイ協会からご購読のみなさまへ

■ ご意見、ご質問をどうぞ

電子メールによる日本マラウイ協会からのお知らせを受け取りたい方、当会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、
E-mail: info@japan-malawi.org へご連絡ください。

■ グローバルフェスタJAPAN2017に出展します

9月30日(土)と10月1日(日)、東京都お台場のセンタープラザにてグローバルフェスタJAPAN(外務省、国際協力機構(JICA)、特定非営利活動国際協力NGOセンター(JANIC)共催)が開催され、今年も当会は参加出展いたします。お時間があるかたはぜひお越しください。

■ KWACHAバックナンバー閲覧出来ます

当会は2017年2月に設立34周年を迎えました。創設以来機関誌KWACHAを発行しており、1983年発行の第1号から今号(第58号)までの全バックナンバーをPDAファイルで当会ホームページに掲載しています。どうぞご覧ください。

■ 定例会の一時休会について

これまでのKWACHA紙でご案内してきましたように、従来、定例会を毎月最終木曜日にJICA地球広場(新宿区千ヶ谷)で開催してきましたが、2017年7月開催の会をもって一時休会させていただくこととなりました。今後、インターネットを利用した情報交換をはじめ、協会事業運営を工夫して、ご協力いた

く方法をご案内させていただきます。よろしくお祈りします。

■ 協会会費の支払い方法

インターネットを使ってクレジットカード(VISA)で会費の支払いができるようになりました。ホームページでメニュー「募集」をクリックして、会員募集の欄をご覧ください。会員継続のための支払いでしたら、カード払いが簡単です。3,000円の正会員継続の場合、http://tinyurl.com/malawi-regularでVISAカードでの支払ページへ移動します。

なお、従来どおり銀行振込または郵便振替での送金も可能です。以下の振込先情報をもとに送金をお願いします。

- (1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739
口座名義：日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗
- (2)ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキョウ店)
当座預金口座 0013125
口座名義：日本マラウイ協会
(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号：00190-7-13125)
- (3) VISAカード(オンライン決済代行SPIKE)
正会員継続 http://tinyurl.com/malawi-regular
正会員入会 http://tinyurl.com/malawi-member
賛助会員入会・継続 http://tinyurl.com/malawi-sanjo